

らい 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 158 11月号

2018年11月1日 発行

たつの市立図書館

龍野図書館 TEL (0791) 62-0469

新宮図書館 TEL (0791) 75-3332

揖保川図書館 TEL (0791) 72-7666

御津図書館 TEL (079) 322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>

播磨科学公園都市圏域
定住自立圏電子図書館

電子図書館へは、
右のQRコードから
(<https://www.d-library.jp/haritei/>)



読書と私 No.148

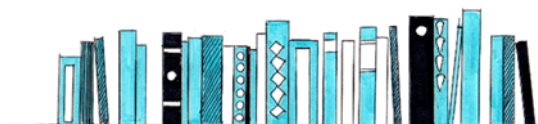
「頼 (来) ぶらり」

御津町 深江 美和

お花や野菜を育てることが大好きだった母の病気がわかったのは、今から3年程前のことです。病気になってからは、大好きだった土いじりをするのも難しくなりました。家で横になったり、ぼんやりする事が多くなった母。ある時治療で入院した際に、病院の売店で推理小説を数冊買い、すぐに読んでしまって「私、実は推理小説好きなんや。おもしろかった。」と笑う姿を見て、あっ、図書館で本を借りて母に持って行ってあげよう！と、その足で図書館に直行したのを思い出します。沢山の本を眺め、いつも母の事を思い浮かべながら、この本はどうかな？喜んでくれるかな？と私も楽しんで本を選んでいきます。母が「おもしろかった」とか「続編が読みたい」と言ってくれると、とても嬉しくなります。たまに「あれはイマイチだった」と厳しい感想もあるのですが(笑)

そして、私の高校3年生の娘。2年間にわたり書き上げた学校の論文では、御津図書館の職員さんに、とてもお世話になりました。書籍探しから始まり、論文の中で大きな鍵を握る人物、鳴沢真也さんのことや西はりま天文台にいらっしゃることを教えてくださいました。夏休みには鳴沢さんに実際にお会いし、おはなしも出来ました。また、ある時には「論文の参考になりそうな新刊本があるよ」と声をかけてくださった事もありました。図書館の職員さんの存在がなければ、娘の論文の完成はなかったと言っても過言ではありません。そして図書館がなければ母の日々の楽しみはなかったと思います。私にとって図書館とは、とても頼りになる大切な場所「頼 (来) ぶらり」です。

※「読書と私」は図書館の利用者に執筆していただいています。



『誰のために法は生まれた』 木庭 顕 著 朝日出版社



刺激的なタイトルに、著者は明快に答えて「たった一人を守るため」という。法は決して社会の秩序を守るために国民を縛るルールではない。この解への導きがふるっている。法学者である著者が中高生とギリシヤ悲劇や古典的な映画などを読み解き、対話形式で法の本質を考える。

たとえば、ソフォクレス作の「アンティゴネー」では、テーバイの統治者クレオンは、裏切って戦死した甥のポリュネイケースの埋葬を禁止する。ところが妹のアンティゴネーは法律違反で死刑になるとわかっていながら、なぜ兄を埋葬したのかと、著者は問う。それに対して、「クレオンはたとえ親族であろうと敵は埋葬しない」という国家の制度を重視すべきと考えたのに対して、アンティゴネーは血縁だから埋葬するのではなく、敵だから埋葬しないという考えに反

対している」「もう、死んでしまっていて、誰も替えのきかない存在になっている」から、集団が個人を犠牲にしていくのを批判し、犠牲にされる個人を救うにはどうするかを考える。

イタリア映画「自転車泥棒」では、窃盗団に生活の糧である自転車を盗まれた男を通して、個人の「占有」が集団によって脅かされる状況を描いていると解説する。

また、最高裁判所の判例では、事故で死んだ自衛官を妻の意思を無視して「護国神社」に合祀できるかという問題で、精神の自由について考える。

本書は、中高生たちの率直な言葉、鋭い指摘に驚かされるとともに、群れない個人として、ネガティブ・ケイパビリティ（容易に答えの出ない事態に耐えうる能力）の必要性を感じる。加えて、古典の持つ力を再確認するべく、取り上げられた作品を読みたくなるのも本書の良き副産物であろう。（揖保川図書館 大西）

トピックス

イベントのお知らせ

※申込、問い合わせは各図書館まで

龍野図書館



レトロな龍野地区の町並みで、さまざまなイベントが開催されます。図書館では貴重本の一般公開や浮世絵関連図書を表示します。

■世界に限定 33 部の貴重本の一般公開
ミケランジェロ ラ ドッタ マーノ
『Michelangelo: La Dotta Mano』

■歌川広重没後 160 年記念浮世絵関連図書特別展
『オランダ国立ライデン民族学博物館 シーポルトコレクション秘蔵浮世絵(Ⅰ～Ⅲ)』他

【日時】 11月24日(土)・25日(日)
※いずれも11時～15時
【場所】 龍野図書館 2階 展示室(申込不要)

新宮図書館

犬と友だちになろう!



犬のヒミツや飼い方を教えてもらって、犬と仲良くなるう!

【日時】 12月16日(日) 10時30分～11時45分
【場所】 新宮図書館 研修室
【指導】 兵庫県動物愛護センター龍野支所
動物愛護推進員と飼育犬たち
【対象】 5歳以上の子どもとその保護者
(大人だけの参加も可)
【定員】 25名(先着順・要申込)
【参加費】 ひとり50円(レクレーション保険料)
【申込】 新宮図書館(電話可)



全館

トライやる・ウィークのお知らせ

市内中学校2年生の生徒がトライやる・ウィークで職業体験をします。カウンター業務や移動図書館など初めての体験に挑戦します。温かく見守ってください。
【期間】 11月5日(月)～11月11日(日)のうち5日間

おすすめする子どもの本・146

『たこをあげるひとまねこざる』

マーガレット・レイ 文 H.A.レイ 絵 光吉 夏弥 訳 岩波書店



じょーじは、かわいっこざるですが、とても知りたがりやでした。ある日、家の窓から見える小さな家にだれが住んでいるのか、知りたくなります。

そこには、お母さんうさぎとたくさんの子うさぎがいました。じょーじは、子うさぎとかくれんぼしようとして逃がしてしまいます。あちこち探しても見つからず、困ってしまいました。そこで、お母さんうさぎと一緒に探してもらおうと、すぐ見つけ出してくれました。

その後、釣り竿を持ったおじさんが気になり、じょーじも真似をして釣りを始めます。ところが、上手く釣れず手で捕まえようと身を乗り出して、水の中に落ちてしま

いました。やっと水から上がると、少年びるが凧を揚げていました。風が強く、ぐんぐん凧を引っ張り揚げています。じょーじは、凧を揚げてみたくてたまらなくなりました。びるがいない間に、糸をほぐして揚げていきます。びるが戻ると、じょーじも凧も空のずうっと上の方にいました。じょーじは、愉快でした。でも、ふと下を見た途端、楽しさは吹っ飛んでしまいました。このまま下りられなかったら、どうなるでしょう。

黄色い帽子のおじさんがヘリコプターで助けに来てくれた時の、じょーじの安心した顔が印象的です。好奇心旺盛なじょーじの表情や仕草が生き生きと描かれ、物語を引き立てます。読んであげるなら、6歳くらいから。（新宮図書館 進藤）

『エーミルとクリスマスのごちそう』

アストリッド・リンドグレン 作 石井 登志子 訳 岩波書店



家族でヴィンメルビーの市に出かけた5歳の男の子エーミルは、家畜を売買している原っぱで、美しい茶色の馬と出会います。欲しくてたまらなくなり、お父さんを連れて

戻った時には、馬商人が買ったあとでした。馬商人はその馬に蹄鉄を打とうとしましたが、馬が暴れて誰も打つことができず、「欲しいやつには誰にでもくれてやる！」と言いました。そこで、エーミルは、「ぼくが欲しい！」と名乗りをあげます。すると馬商人は、「こんなちびっちょがか」と笑い、馬をくれてやるのが惜しくなって「もしも、蹄鉄が打てるように、おまえさんがこいつをしっかりとおさえられたらな！」と条件を

出しました。馬のことを大人よりも知っているエーミルにはその馬が特別のくすぐったがりだとわかり、馬の頭を抱いてくすぐったくしないからと約束して、無事蹄鉄を打ちました。そして、エーミルは將軍のように悠々と馬に乗って市の門から駆け抜けます。

小さなエーミルが、お金持ちの馬商人から馬を手に入れる結末は痛快で、大好きな馬と一緒にいられる喜びが伝わってきます。

このお話の他に父さんの足をねずみとりで挟んでしまうお話やクリスマスのお話があります。この本は『エーミルはいたずらっこ』に続く2巻目で、3巻目は『エーミルの大すきな友だち』です。小学3年生くらいから。（龍野図書館 上田）



11月の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

★ えほんのじかん・・・絵本の読み聞かせ、わらべ歌など

龍野図書館 【対象】1～3歳児、保護者

10日(土)・17日(土) 11時～11時20分
『おおきなかぶ』他

新宮図書館 【対象】2～4歳児、保護者

12日(月)・18日(日)・26日(月) 11時～11時20分
『ばけはけはば』他

揖保川図書館 【対象】2～4歳児、保護者

3日(土)・10日(土)・17日(土) 10時30分～10時50分
『おんぶにだっこ』他

御津図書館

【対象】1～4歳児、保護者

11日(日)・18日(日)
11時～11時20分
『ココさんのおみせ』他

【対象】5歳児～

11日(日)・18日(日)
11時30分～11時50分
『どろんここぶた』他

★ おはなしのじかん【対象：5歳児以上】・・・昔話などの語り、絵本の読み聞かせなど

新宮図書館

10日(土)・17日(土)・24日(土)
10時15分～10時45分
「はちみつの好きなキツネ」他

揖保川図書館

3日(土)・10日(土)・17日(土)
11時～11時30分
「犬と猫とうろこ玉」他

★ 読書会【対象：一般】・・・本を読んで感想を話し合う

龍野図書館

9日(金)
10時～11時30分
『君たちはどう生きるか』
吉野 源三郎 著

揖保川図書館

2日(金)
10時～12時
『永遠の0』
白田 尚樹 著

御津図書館

14日(水)
13時30分～15時30分
『サイレント・プレス』
南 杏子 著

★ 子どもの本を読む会【対象：一般】

龍野図書館

8日(木) 10時～11時30分
宮澤賢治の本を各自が選んで読んでくる ※別会場



館内特集・展示 (一部紹介)

龍野図書館

児童展示 どうぶつのおはなし

子ども達が知っている動物のお話『ちいさなねこ』、『かばくん』、『アンディとらいおん』など、いろんな動物が出てくる本を揃えています。子ども達と一緒に読書の秋を楽しんでください。

【期間】11月29日まで

新宮図書館

兵庫の近代歴史遺産

兵庫県は今年、県政150周年を迎えました。それにちなんで作成された冊子「今こそ巡りたい 兵庫の近代歴史遺産150」より、明治から昭和20年頃までの県内の建造物やそれにまつわる人物や物語が書かれた本を紹介いたします。

【期間】11月29日まで

揖保川図書館

童謡100年 詩の世界

1918年(大正7年)創刊の児童文芸誌『赤い鳥』で童謡が誕生してから100年。その間、たつの市出身の三木露風作詩の「赤とんぼ」など多くの名作が生まれました。長年歌い継がれてきた童謡の言葉の魅力に触れてみませんか?

【期間】11月29日まで

御津図書館

児童展示 ふしぎがいっぱい

絵本や物語で、魔法使いが登場したり、不思議な出来事が起こるおはなしを集めました。また、トリックや錯視など、目で見て楽しい本も紹介しています。

【期間】11月29日まで